

釧路湿原自然再生への市民参加の可能性とあり方について

1 釧路湿原の保全への市民参加の状況

(1) NPO・NGOの活動

- * 自然ガイド、環境教育、環境保全用地の取得、広葉樹の植林、セミナー、調査・提言、情報発信・・・

(2) ボランティア活動

- * 自然ガイド、ごみ拾い、調査・・・

(3) 個人が参加できるプログラム

- * 植樹イベント、ごみ拾い、自然観察会、ワークキャンプ、シンポジウム、ワークショップ等・・・

2 釧路湿原の自然再生への市民参加のあり方

(1) 自然再生に市民が参加する意義

- * なぜ市民参加が必要か
 - 公共事業・政策はそもそも市民のためにある
 - 市民参加・協力による事業そのものの促進・支援
 - 市民活動ならではの行動力と機動性
 - 公共事業における協働の創出
 - 地域・住民主導で地域保全・創造を自立的に進める文化の創出
- * 事業主体にとっての市民参加の意義
 - 事業展開における地域ニーズ、市民意見の把握と施策への反映
 - 地域主導による自立的な事業展開への期待
 - 保全や再生事業に対する体験的理解の促進、正確な情報や認識の普及
 - 関心層・支持層・協力層の拡大
- * 市民・地域にとっての参加の意義
 - 公共事業・政策への主体的参加・協働の機会
 - 地域主導型公共事業へのステップ
 - 保全や再生事業への直接参加・体験の機会
 - 情報やノウハウの市民セクターにおける蓄積
 - 地域における新たな産業・雇用の創出

(2) 地域からの参加について

- * 地域が主導すべきプロセス・分野
 - 地域の環境・経済・社会を持続させる一手段としての位置づけ
 - 具体的な再生・保全にかかる目標設定への参加
 - 住民主導が必然・可能な作業の参加・管理

- 環境変化の継続的なモニタリング

* 参加を期待する主体

- 個人
- N G O / N P O
- 学校・児童・生徒・学生
- 自治会・町内会等の地縁集団
- 地場産業（農業、林業、ベンチャー企業、観光産業等）
- 土地所有者

(3) 域外からの参加について

* 来訪者が参加する意義

- 地域への来訪者の視点の提供、地域への刺激
- 地域のファン拡大
- 経済的波及効果と域外への広報効果
- 技術習得・トレーニングの場

* 域外のグループ・専門家等との連携

- 地域に不足している情報や専門性の確保
- 地域に対する価値の周知・広報効果

* 公園利用の一形態としての参加

- 保全・再生への参加・貢献機会の提供
- 公共事業・政策への主体的参加の機会
- ワークキャンプ・ワークホリデー文化の定着

(4) 各段階での市民参加の必要性・可能性

* 事業計画・目標設定・評価

- 地域が意思決定に直接参加する必要性
- 域外からの情報・専門性の反映

* 再生作業への直接参加

- 労力提供（ex. 育種・育苗、植林、外来種駆除等）
- 再生・保全プロセスの正確な理解促進

* モニタリング

- 地域自身による継続的なモニタリング
- 域外専門家によるチェック

* 間接的な支援

- 資金協力
- インターネット等による情報流通

3 市民参加の動機付けと支援方策

(1) 地域に対する動機づけ・支援方策

* 関心拡大と当事者意識の醸成

- 情報公開の徹底と情報へのアクセスの保証

- 円卓会議的な意見交換の場の設置
- イベントや定例行事等接点の提供
- スキル修得等につながる中長期的な参加プログラム
- 参加することの魅力づくり

* 行政・学校・産業による支援・連携の必要性

- 学校行事・カリキュラム（単位）への導入
- インターン制度の導入
- 職場単位での受け入れプログラム
- 地域の官公庁職員や教員の参加促進

(2) 地域外からの参加の動機づけ・支援方策

* 幅広い参加と支援の獲得のために何が必要か

- 参加することの魅力・メリット
- 参加しやすさ（多様で安価なプログラム・日程）
- 参加の機会の周知
- 参加者の感想・意見の把握

* 来訪者は何を必要としているか

- 参加と滞在に関する情報源
- アクセスのしやすさ
- 学び・参加への充足感
- 地域との交流・地域を理解するプログラム

(3) 参加を促進する条件・前提

* 参加する側の条件

- 参加機会についての情報
- 個々のプログラムに参加するに足るスキル（知識・技術）
- 時間とお金

* 幅広い参加の機会

- 常時解放されている場の存在
- 企画・実施主体の存在
- 多様なプログラム
- コーディネート作業

(4) コーディネーター役（人・組織）の必要性

* 関わる各主体の役割

- 国
- 道
- 市町村
- 地域住民
- N G O / N P O
- 専門家
- 地場産業
- 域外産業
- 学校教育

* 各主体間をつなぐコーディネーター役の必要性

- 参加・協働のプロデューサー・コーディネーター役が実際の参加の場面を作る。
- 参加の機会を増やし、便宜を図る情報拠点（再生・保全情報センターとTourist Informationの二役）が層を広げる。
- 組織として安定して活動できることが必要。（個人では無理）

* コーディネーター役に必要なもの

- 人材確保（雇用・身分保障）
- 安定した活動財源の確保（安価で参加できるよう）
- 活動の自主性・独立性

資料 1